

まるで大切な何かをカメラにしまおうよに、カメラマンがシャッターを押す。

「こっち向いて！いいねえ！その笑顔！目線こっちにください！」と声をかけながら、それこそ何千枚、何万枚と撮りまくるものかと思っていたが今回は違った。

約2時間に渡り、4人のレイヤー（コスプレイヤーとは呼ばないそうです）が代わる代わるカメラの前に立ち、撮った枚数は約350枚。カメラマンからの熱っぽい声掛けやポーズなどの要求はなかった。

長屋門の魅力発信と称し、門周辺で撮影してほしいというこちらの要望以外は、レイヤーやカメラマンにお任せした。レイヤー同士で意見を出し合いながら撮影場所を選び、構図を決める。カメラマンは撮影角度を変えながら、照度の調整を行う。カメラの前に立つレイヤーが覚悟を決めたようにカメラマンが見たのをきっかけにカメラマンが「3,2,1」と静かに声掛けし、一枚一枚、丁寧にシャッターを押すのだ。

撮影データを覗き込むレイヤーたちは、あどけなく、一見はしゃいでいるようにも見える。でもこれは遊びじゃないのよ、と目の奥に真剣さも潜んでいる。小さな子どもが大人に撮ってもらった写真を「見せて、見せて」と覗き込む目は全く違うように感じた。自分の分身と認めてもいいかどうかを瞬時に判断しているかのようだ。

だからといって主導権がレイヤー側にあるかというとそれは違うようだった。データチェックのときは緊張感が漂ったが、それも一瞬。チェックはあっさり終わり、「データはメールで送るね」「は～い」という軽い感じでやり取りは結ばれた。両者の分厚い信頼関係を感じずにいられない。まるで、長屋門が主や時代に合わせて、用途や趣を華麗に変え、現代に息づいている、分厚い歴史に通じるものがあるなど感動し、長屋門で撮影して良かったとしみじみ思う。撮影に協力して下さった方々に末筆ながら感謝申し上げます。

(おまけ)撮影中、道行く車からの熱い視線を感じることも数回。何してるんやろ、若いなあ、薄着やけど寒くないかな、あんな衣装を自分も着てみたいなあ、さまざまかと思えます。目撃されたあなた！ぜひ目撃談を編集部へお寄せください。

レイヤー：桜、ごまこま、ちはる、るな  
撮影：KATU



プロジェクションマッピング風に

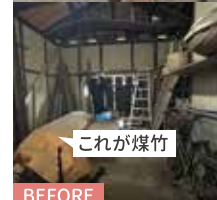


AFTER 久しぶりに扉を開けて



### 納屋

建材や農機具、自転車や粗大ゴミなどを置く物置となっていた場所がすっきりと片付き、暗さを生かして映像と音楽のスペースに。土壁の白っぽい部分にだけ映像が映し出されて、プロジェクションマッピングみたい。



BEFORE

いちばん場所をとっていたのは、改修前の母屋の壁に使われていた煤竹。使いたい人に繋ぎたいと思っていたものを、和太鼓奏者の柴田さんにお譲りすることに。太鼓のパチにびったりなんですって。何か動きはじめたら、新たな出会いがあるものですね。

映像と音楽で別世界



ふるまいぜんざいを塗粉で

### 庭

長屋門で囲まれた中庭の空間がとてもいい感じに。母屋で準備したふるまいの「ぜんざい」を食べる人、使わなくなった食器を集めて即席の「せともの市」をじっくり見る人、スタッフとご近所さんのおしゃべり、和太鼓演奏の披露もあって、とてもにぎやかで多様な空間になりました。

急ごしらえで、自分たちがやりたいことをやってみようという企画がどんどん膨らんで、ご近所さんや興味のある人が来てくれるひとときに。すべて無料だったので、お気持ちは募金箱に入れていただき、集まった10,200円は日本赤十字社を通じて能登へ寄付しました。

かつては年末にかまどを出してきて、家族総出でもち米を蒸すところからワイワイお餅を作っていた場所。いろんな人の声でいっぱいになって、納屋も厩もすっきりキレイになって、家も喜んでいるみたいでした。きっとまた近いうちに、何かに使うことになりそうです。

にぎやかな庭空間



和太鼓奏者・柴田さん

煤竹で作られるパチ

せともの市



掃除のときも大活躍!

井戸はずっと使っておらず、ゴミが入らないようにと板や石で覆われていました。何十年ぶりに外したら、深く暗い世界が…着物の帯を飾るだけで別の空間になりました。

井戸も門の内側も、屋根のある半外空間は準備のときも大活躍。作業場としては満点です!

焼板はチラシを貼るのも楽! 国旗以外の旗が初めて掲げられました笑



## 長屋門を実際につかってみた!

編集会議で「実際に使ってみようね!」となって、町内にあるスタッフの家の長屋門をみんなで片付けて準備して、2月初旬の晴れた日に、ちょっとしたイベントみたいにして長屋門をつかってみました。

ちょっと遠くからお越しいただいた方に感想を聞きました



家族でお邪魔しました。私には、入口の雰囲気からして「懐かしい〜」建物でした。心惹かれたのは、厩に展示してあった焼き物、和ダンスの引き出しに、食器を飾るという工夫にも感じました。場所やタンスの雰囲気が、食器とよく調和していたと思います。娘には、古民家のリノベーション的な感じで、見るもの全てが新鮮に映ったようです。お風呂の焚口なんか、今も見ることもないです。太鼓の演奏も雰囲気しっくりしていて、素敵でした。おぜんざいも、ごちそうさまでした。おいしくいただきました。  
久野貴美香さん

「長屋門」を初めて見ました。日本の古い建物の中に置かれたベルギーのアンティーク食器がとてもマッチしていて、時空を超えて東西の文化の融合を楽しむことができました。また古い納屋の壁に映る映像も斬新な面白さがありました。  
たつの市在住 丸庭と子さん(播磨オレンジパートナー代表)

AFTER すっと隠れていた井戸が出現

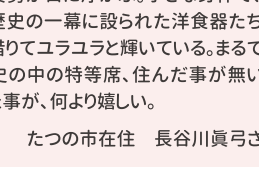
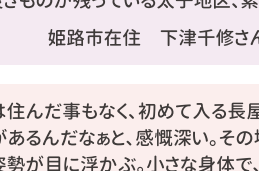
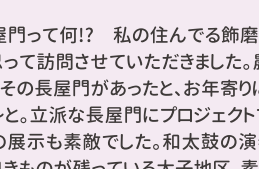
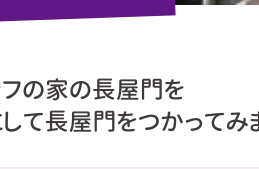


BEFORE

AFTER すてきなギャラリースペースに



### 井戸

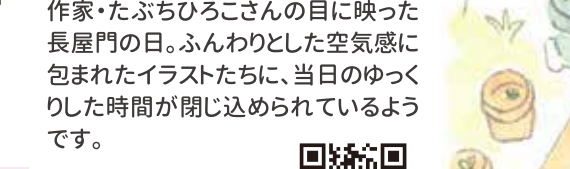


### うまや 厩

1748年に創業されたBoch(ボッホ)の食器たちは、ベルギーのプロカント(蚤の市)で、雨水や泥に紛れながら横たわっていた子達。「今はもうこのブランドは存在しないから、日本でも人気なんだよ」との友人の言葉がきっかけで集めはじめました。

かつて家族の日常の食事を彩った食器達と、今はもう使用されていない厩がコラボ。時空を越えて、国境を越えて命を吹き込まれ食器達が心地よく座っている姿に、ふしぎな風を感じました。私がプロカントで連れて帰らなかったらベルギーにいた器が「この場所で居場所をみつけたよ」と語りかけているかのように思えました。

ヨーロッパ×日本。18世紀×21世紀。時代と国境を越えて重なる一日となり、連れて帰って来て良かったと改めて思えた日でした。



作家・たぶちひろこさんの目に映った長屋門の日。ふんわりとした空気感に包まれたイラストたちに、当日のゆっくりした時間が閉じ込められているようです。

たぶちひろこさん  
プロフィールと作品はこちら



## 時空と国境を越えて

小林知子  
アトリエ・リリー主宰  
娘さんの作品も映えます

## 外国人とみた長屋門

松浦りつ子  
元・太子高校校長

カナダ人の Marlon (マーロン) さんと、長屋門をみてまわりました。日本の農家の建物は、外国人の人にはどんな風に見えるのかなあ…



まずは説明なしで。どんな感じ?  
外からは、門の両側に部屋があるみたいに見えるね。Gate(門)の屋根の上は、瓦? 平らじゃなくて立体的なんだね。



トイレとお風呂が並んで設置してあるの。トイレが外にあるから、田んぼ仕事から帰ってきてても、靴を脱がずに行けるね。  
なるほど。それはいいね。



今はポンプが置いてあるけど、昔は綱に付けた「つるべ」っていうものを使って、手作業で水を汲んでいたの。中は、石組みで作ってある。マーロンさんは、中をのぞき込んだりして、長屋門の中では一番興味をひかれた場所だったみたい。  
カナダにも井戸はあるよ。Wellっていう。ポンプじゃなくて、バケツのようなもので、ヒモを手繰り寄せて汲み上げるんだ。(それって、つるべなんじゃ…?)



厩(うまや)の感想を聞きたかったけど、すっかり片付けて食器類を展示している状態だったので、場所に関しては特別な感想は無く、どっかっていうと、飾ってあるアンティークの食器に心惹かれた感じ。展示担当の小林さんと、話が盛り上がりました。



マ ベルギーでこれを全部集めた?すごいね。  
小 蚤の市で、ただみたいない値段で売ってたの。  
松 何語で買いましたの?  
小 現地はフランス語が公用語の一つだけど、私は全然しゃべれないよ〜って。で、英語はどうって聞かれたから、どっちもダメ、日本語オンリーね!って!!  
マ HAHHAH!!  
小 もう、この窯元はなくなってるから、買って良かったわ。  
マ シックで感じがいい。  
松 マーロンさん、こっちのレース編みは19世紀のものなんだって。  
Ma Oh! (...なんて感じて、鑑賞タイムは過ぎてゆきました…)



納屋は農機具なんかをしまっておく所。住居部分に比べると、天井も高いね。  
農機具を片付けるとこうだというのは、よくわかるね。カナダも、こんなふうに「納屋」に片付けるよ。でも、カナダの農場はとっても広いから、機械で耕したり収穫したりする。だから、納屋はもっと規模が大きいんだ。この壁に混ぜ込んであるのは、木?



これは乾燥させた「わら」を刻んだもので、土と混ぜて壁にしたものよ。

### Marlon さんプロフィール

カナダのOttawa出身。趣味は映画鑑賞とスポーツ。カナダの実家には、Spartaという名前の犬がいる。新天地で仕事が出来たら、兵庫県の太子高等学校へ赴任が決まり、2年前から英語を教えている。赴任先の決定は偶然だったけど、太子はとってもいいところ。僕はラッキーだよ。日本で好きな所は、関西圏と沖縄だね。と話す、27歳。

